

【随筆】

私の50年間の思い出

因 藤 賢太郎

私が大町一丁目より塩野川に越して来たのは町内会が結成される前年の秋のことでまだ高校三年生の時でした。

月日の経つのは早いものであれから51年も過ぎ去ったとは思いませんでしたがその間の出来事（思い出）は数々ありますが町内会の幾多の行事や事業については父母にほとんどまかせっきりで個人的には参加したり協力をした記憶がありません。でも私は梁川町の消防団活動には20年間従事致しましたし平成年間に入り国勢調査や労働力調査などに係り現在に至っております。又現役で国土交通省の阿武隈川水系の元舟場樋管における水門係を24年間にわたり行なっており今に至っております。

私の家は専業農家としてキュウリやイチゴ又は根菜類など多岐にわたり栽培しており連日忙しい日々を過ごしてまいりました。私が結婚して4人（男3人、女1人）の子供達に恵まれた事により大家族で大変にぎやかで楽しい日々を過ごさせていただきました。

年月が過ぎるにつれ祖父が昭和61年8月5日の大水害の年の春に亡くなりましたし父も平成23年大震災の前年の12月に帰らぬ人となりました。子供達もすべて1人立ちしておりまして遠方に就職しておる関係で中々会う機会がございませんが正月やお盆の休みには帰省すると昔のにぎやかさが思いおこされます。塩野川の子供会

には長年にわたりお世話になり本当に心よりの感謝を申し上げます。

父が亡くなった後私達は母と妻の3人家族で農業を営んでまいりましたが母も高齢になり労働力不足が現在の経営規模を維持するのには大変困難をとまなう様になってまいりました。塩野川に越して50年間でキュウリのハウスやイチゴのハウスなど規模の拡大に努めて一生懸命がんばってまいりましたが、後継者のいない現状では今後の農業経営に不安を感じながら規模の縮小も考えなければならないと思っております。

私、個人として町内会には理事や組長など長年にわたり係りを持ってまいりましたがすべて父母に頼りきりで何かをなしとげた気持はありません。父が帰らぬ人となってから町内会の役員を引き受けて現在に至っておりますが忙しさのあまり役員の皆様方には御迷惑ばかりかけている事に対して反省をするばかりです。



【随筆】

塩野川と私の思い出

名谷明雄

昭和51年2月、辺りは一面雪景色、路面は凍り付き、強い風が冷たいほほをさらに冷たくしていました。私たち家族5人、塩野川に住むことになった当時を思い起こすと、2月は大変に寒く、降雪量も今と比較すると断然多かったと思います。家の前の道路は砂利道で、道幅も狭く、路面には草が生え、轍（わだち）ができていました。雪が降ると、今のようにきれいに雪かきをすることは難しく、でこぼこに氷の塊ができてツルツルに、歩くのにも大変な思いをしたものです。

間もなく家族が一人増え、二人の子育ての大事な期間。当時の塩野川には同年代の子どもたちも多くいて、集団登校もにぎやかに、夏休みのキャンプや早朝のラジオ体操、12月にはクリスマス会、そして3月には歓送迎会と、子どもたちが主体となつての活動を通して、集団での生活や社会生活といった、子どもたちにとって大切な学びをたくさんさせていただきました。大変すばらしい環境で子育てをしていただき、塩野川の地域力に感謝をしています。

そんな平穏で幸せな日々を、まさに降って湧いた、忘れることのできない昭和61年8月5日。朝、いつものように出勤しようと、2階の部屋でネクタイを結びながら、ふと窓の外を眺めてようやく異変に気づきました。取るものも取りあえず、とはいえ、朝食前でしたので、炊いたご飯を炊飯器ごと持ち、家族そろって梁川体育館に避難し

ました。それまでは、テレビのニュースなどで洪水による災害の映像は見ていましたが、実際に体験して初めて被害の甚大さ、すさまじさを知りました。我が家は1階の天井近くまで泥水に浸かり、部屋の中は全て天地をひっくり返したような有様で、畳が一番上になっていました。何もかも泥まみれ、洗っても洗っても泥の粒子が非常にこまくて落ちませんでした。真夏で暑い最中、汗だくで家財のほとんどをゴミとして処分する毎日、情けなく、悔しい思いでいっぱいでした。当時68歳の父が、共に一生懸命後片付けをしている姿をみるのが大変つらく悲しかったことを強く覚えています。当時は災害ボランティアという言葉はあまり耳にしませんでしたが、親戚、知人、そして地域の多くの皆さんに助けていただいて、何とか日常の生活を取り戻すことができました。

私は今年、奇（く）しくも当時の父と同じ年齢となり、塩野川に住んで41年になりました。仕事の忙しさから地域とは疎遠になり、塩野川町内のことをほとんど知らない私でしたが、退職を機に町内会活動に携わらせていただくことになりました。わずかでも役に立つことができれば、という思いで活動させていただいております。

この塩野川町内が、水害等の心配もなく、平穏で、明るく、楽しく、そして皆が幸せに暮らせる街に。さらに発展していくことを切に願っています。

昭和43年、私は高等学校に入学してまもなく山舟生から塩野川町内（北町谷川）に移り住むことになりました。考えてみれば私が塩野川町内に居住してから現在までの時間は町内会の年数とほぼ同じ時間を過ごしてきたことになります。

町内会との関わりは体育振興会ソフトボールチームへのお誘いでした。その頃はソフトボールや野球が盛んで、特にソフトボールは梁川地区全体で7ブロック50チーム以上の参加で早朝リーグ戦が行われていました。試合があるときは朝5時に集合、5時30分試合開始、6時30分試合終了と同時に帰宅して急いで朝ご飯を食べてバイクで仕事に向かったものでした。塩野川体育振興会としてチーム登録をして最上位のAブロックで活動していました。さらに町内対抗ソフトボール大会では3年連続で優勝するなど梁川町内でも強豪チームとして他町内から一目置かれる存在でした。そして大会当日は町内の方々が応援に来ていただき、選手、応援者が一体になって楽しんでいました。当時は梁川各町内でチーム編成がされて22チームのトーナメント戦が行われ、一人で5試合も投げぬいたこともありました。町内対抗ソフトボール大会で特に記憶しているのは初優勝した時の優勝祝賀会が当時の萬よし旅館で行われ町内の多数の方が出席され萬よし旅館の大広間がいっぱいになったものでした。

また、塩野川町内会の行事としてレクリ

ェーション大会を開くことになった際には、体育振興会が中心となって町内大運動会を開催することになりました。当時は町内会の一大イベントで種目の選定や道具類の準備、プログラム進行計画など1ヶ月以上毎晩集会所に集まって作業に追われました。阿武隈川河川敷で開いたり梁川小学校校庭、梁川高校グラウンドで開いたこともありました。運動会当日は各家庭弁当持参で参加して、老いも若きも秋晴れの空のもとで楽しい一日を過ごしたものでした。

体育振興会活動で記憶しているなかに体育振興会会員で旅行に行ったことがあります。岳温泉にあったグリンピア二本松や菅生ハイランドパークに会員家族がバス貸し切りで出かけて楽しんできました。私は多くの先輩会員の方々にお世話になりながら過ごしてきましたが、年齢を重ねるうちに体育振興会活動からはしだいに遠ざかることになってしまいました。

現在は町内会役員の端に加えていただき町内会活動に参加しております。これからも微力ながら精一杯務めていきたいと思えます。

光陰矢の如し、真に実感するこの頃です。高齢者の仲間入りをしてしまいました。

塩野川町内に生まれ、塩野川で育ち、両親はもとより、地域の人たちにも育てられた感は否めません。

私が子供の頃の塩野川の世帯数は、30軒足らず。それだけに深い絆でのお付き合いがあり、子供達同士も、兄弟の様にして先ず遊び惚けていました。ガキ大将を中心にして。

その遊びはといえば、学校から帰宅後、休日などは、だれ彼となく熊野神社に集まり、その日の人数で、何となく遊び方が決まったように思います。

町内を流れる塩野川、清らかな流れに魚影も濃く、毛ガニ、鰻、鮎なども群れを成して泳いでいました。そこで、魚捕りです。子供の世界にも適材適所はあったとみえて、主に私は、バケツ持ちだったように思います。沢山捕れました。年齢差のある子供たちが、いろんな遊びを通じて子供ながらに社会性を身に付けていけたように思われます。

小学校3、4年の頃と記憶していますが、音楽の時間に唱歌「春の小川」をハーモニカで一生懸命練習したのですが、塩野川の流れを思い浮かべながらのことでした。

また、現在は少子化により開催もままならなく行われていませんが、町内対抗のソフトボール大会が、夏休みに催されています。塩野川のチームは、他町と比べ子供

も少なく、負けることが常でした。しかし、収穫後の田んぼ、河川敷で用具もなかった時代でしたが楽しく練習？して遊んだものです。

その頃、塩野川に青農会という組織があり、会の畑でのジャガイモ掘りを子供会に依頼され、涼しい早朝に皆で手伝い、お礼に男の子には野球のバットとミットを。女の子には、ドッチボールをプレゼントされたのも嬉しかった出来事で、粹な計らいと今に思います。少年期、豊かな自然、温かな人情味あふれる人々に囲まれ、昭和の良き時代を過ごせたものと思います。

同時代を過ごした町内の人たちからは、今でも「ちゃん」付けで呼ばれ、一瞬、若返った様な気分で、心地良く心に響きます。

町内会が発足、先人たちのたゆまぬ努力もあり50周年の節目を迎えることができました。思えば当時とは、時代の趨勢とは言え隔世の感があります。世帯数も増え、開催される町内会行事も芋煮会を始め多岐にわたり、多くの町内会員との交流も楽しいものがあります。

今日まで、町内会の皆さま始め、多くの方々との出会いが私の中に積もり重なり、生きた教えとなって今の自分を支えているものと考えます。良き時代の、良き習わしをも大切に継承し新しい考えをも取り入れながら、安心して住め、より良い町内会とすべく、微力ながら役員の端くれとして尽力できればと考えています。

塩野川という地域に生まれ育ち、60代の後半に突入しました。高齢者・準高齢者と称される年齢になりました。

近年、縁あって町内会の一役員として同会の活動にかかわりを持たせていただいております。

町内会も50年という長い年月を経てきたことに、設立から現在まで尽力されてきた各先輩方の努力と苦勞が、役員として参加させていただいて改めて痛感されます。

今、「塩野川の思い出」として思い起こしたとき、初めに脳裏に浮かぶのは、幼かった頃から小学生くらいまでの時期です。

塩野川の堤防に囲まれ、道路の両側に家々が建ち並び、軒数も現在の5分の1弱ほどで、農業を主とした小さな集落でした。宅地以外の畑は1か所リンゴ畑があり、あとは桑畑が広がっていた記憶があります。

集落の中ほどに熊野神社（熊ンサマ）があり、境内で良く遊びました。相撲・ソフトボール、陣取りや魚取り、雪が降れば堤防などでソリ滑り、いろいろと思い出されます。

現在、テレビは各家庭で複数台あると思います。いつ頃か明確ではありませんが、集落内の1軒の家庭に当時としては貴重かつ高価なテレビが入りました。プロ野球オールスター戦や大相撲のときは、そのテレビを家の外に設置してくれて、隣近所の方々と観戦させていただきました。

現在の1組の辺りに、養豚所ができたり

もしました。農業も養蚕から野菜作りに変化し、自分が小学1年の頃から、作業工程も人力と牛や馬の利用から、耕うん機などの機械の導入が始まりました。キュウリやイチゴ作りも、梁川町の中ではいち早く始まったのではないのでしょうか。キュウリは地這（じばい）栽培で、ツルをかき分けて収穫。イチゴは露地栽培で、霜が降りそうなときは、ワラなどを掛ける手伝いをしたことが思い起こされます。

その後、町内会が設立され各種行事が行われてきました。梁川橋下の河川敷グラウンドでの組対抗ソフトボール大会では、子供会チームに負けてしまったこと。運動会の100メートル走で1番にはなりましたが、急に走ったために、翌日からは足が痛くてたいへんだったこと。塩野川ソフトボールチームの一員として、町の各種大会で優勝したこと等々。

私も、それから段々と仕事が忙しくなり、町内会や育成会の行事などへの協力ができなくなりました。今になって思えば、当時の関係者の方々に申し訳ない気持ちです。

これだけ大世帯になった町内会ですが、会員皆様の御協力と関係者の御尽力で、芋煮会などの様々な行事を実行していただくことができたことは、たいへんに誇らしい気持ちです。

私も、一役員として、任期中は微力ながら精一杯務めて参りたいと思いますので、これからもよろしくお願いいたします。

【随筆】

塩野川と私の思い出

長沼利雄

町内会設立して50周年を迎えおめでとうございます。この50年という節目にあたり町内会の役員として係わりあっていることを感慨深く思います。そして、今、50年前からのことを考えてみますと、いかにも速く過ぎてきたことを感じます。ちょうど私が20才の時でした。この時に町内をまとめ、塩野川町内会をつくりあげた初代会長の袖山さんを始め役員の方々はいへん御苦労なされたことだと思います。まとめるといっても言葉では簡単ですが、町内の皆さんに理解してもらい、そして納得していただければまとめることはできないと私は思います。そして、ひとつにまとめ、塩野川町内会ができてから戸数・会員数を増やしながら50周年を迎えることになりました。

そして、私自身、昭和48年に結婚して、この地に住み、町内会の会員となったのは、当時の平山会長さんの時でした。それ以来家族も増え、町内の人々に御世話になりながら44年が経ちました。私の人生の半分以上がこの塩野川町内で生活をしていることになります。そしてこの間には、いろいろな事がありました。やはり、昭和61年の8・5水害、今でも、大雨が降るたびに阿武隈川の増水がとても気になります。そして記憶に新しい、平成23年3月11日の東日本大震災と原発事故で、今でもその時のことははっきりと覚えています。水・食料品・ガソリンを得るために、長時間並

んだこともありました。地震は、今でも時々ありますので、被災しないように十分注意していかなければならないと思います。このような災害は、二度と起って欲しくはないと思います。その他にも、昭和63年の待ちに待った阿武隈急行の開通により、通勤・通学・買物など出掛けるのにとっても便利になりました。また平成17年の伊達5町の合併による「伊達市」が誕生しました。この後どのように生活が変わるのだろうかと考えてしまいます。また、堤防も嵩上げになったり、バイパスができることにより消防署が移転したり、ラースールができるなど以前と比べると風景がだいぶ変わってきていると感じます。

今日の、50周年を一つの通過点としてこれからも少しずつ発展しながら、町内会が明るく活発で安心して生活できるような塩野川町内会がいつまでも続くことを願っています。

【 随 筆 】

塩野川町内会史の編集にあたって

岡 崎 邦 雄

初めに、塩野川町内会が50年を迎えるに当たり、一言を申し述べたいと思います。

私、岡崎家は昭和60年に大町2丁目町内会から塩野川町内会9組に編入させていただきました、在籍31年です。

町内史50年を迎えるということの意義は、町内会住民全員の協力と協調の賜物と考えます。私事ですが初めて塩野川町内会に移籍して感じたことは、はっきりと違うものでした。地区の伝統歴史が違うということでした。

在籍年数は長いのですが、自分は意外と町内会への参加貢献度を考えると低い方だと思います。

編集に当たり町内会史を自分の視点から申し上げるほど、自分が町内会を見ていなかったのが実情です。

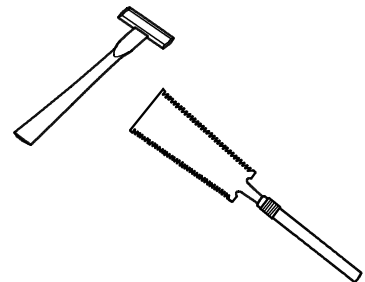
たまたま、今回の編集時に役員（監査）であったにすぎないのです。おかげで文章もはかどらないしまつで、申し訳ないです。

振り返り自分なりの町内会での思い出は、ソフトボール大会への参加等、運動会準備の手伝い等、そして芋煮会準備の手伝い等防災団への手伝い等、数が多いように見えますが、組織が大きいため大味な気がします。

何事にも、町内会会員全員参加を目標と考えたいのですが、各々個々の負担も考えなければならない、難しい町内会運営を見てきました。どうしても理事・組長への負担が大きくなるのです。このへんを改善で

きたらいいと考えます。

最後に「輝かしい塩野川町内会の発展と繁栄への御祈念を申し上げます。」自分なりに微力ながら協力を惜しみません。



まさか塩野川町内の住民になろうとは思ってもいない私が、引っ越してきたのは昭和52年の春です。この塩野川には、小さい頃に、アンゴラウサギの餌用の草刈りにきた記憶があります。辺りは新築工事の真ただ中で、次々と新住民が移り住み、活気がありました。比例するように田畑は消えていきました。良いことなのか、自然破壊なのか、簡単に論じることはできません。

両親も妻も、隣組の新住民と打ち解け、友達の輪も広がり、3人の子供たちは町内の育成会のお世話になって、私は安心して桑折町の職場で企業戦士となり、町内会の行事に協力することもできませんでした。家族全員7人で参加した運動会は、良い思い出で、町内会の人々と知り合う、良い機会となりました。

無事に定年退職となり、恩返しのために、少しでも塩野川町内会の雰囲気良くなるように、協力しなければならない年齢になったということでしょう。

町内会、梁川町、伊達市、いや日本の津々浦々が今、従来の家族制度に対する考え方が根本から変化してしまっています。このため老人の独り暮らしは、急速に増加し続けています。もう当たり前の光景になってしまいました。明日は我身です。このような住民に対して、どのような手助けができるのか、元気で余裕のある住民は、どのような「見守り」ができるのかが問題となります。

単に行政の仕事として任せるだけではなく、「近所の底力」を結集しましょう。人として弱者に対して優しい目線を発揮しましょう。いずれ元気な私も「弱い老人」になります。明日は我身です。お互いさまです。

これからもより良い町内会、住みやすい町内会にするため、一人一人が智慧を出し合い、塩野川町内に暮らして、良かったと思える共同体でありたいと思っています。

塩野川の思い出は、年齢の異なる子供たちが協力し、川的一方を止めて、たくさんのアユを捕り、それぞれの働きに応じて、アユを分配したこと。遊びで腹が減りスカンポを吸ったこと。桑畑に入り桑子を食べ、口全体が紫になり帰ったこと。熟し柿を取って食べ歩いたこと。父が大竹医院のサナトリウムに入院していたため、ちょいちょい見舞いに出掛けたこと。

貧乏でしたけれど、
楽しかったですね。

もう一度、あの頃に
無性に戻りたいですね。

あの頃遊んだ、ガキ大将たちは、今、
どんな人生を送っているのでしょうか。

そして塩野川の出来事を、
思い出すこともあるのでしょうか。